



## 老いのまさに至らんとするを知らず

参議院議員  
客員相談役

藤井 基之



世界でどの国が一番の長寿国か。WHO（世界保健機関）の二〇〇八年時点での世界寿命ランキングによると、第一位は、男性がサンマリノで八十一歳、女性が日本で八十六歳。そして男女総合では、日本とサンマリノがともに八十三歳で、世界第一位だそうです。サンマリノという国は、イタリア半島の中央部にあり、人口約三万人という世界で六番目に小さな国です。ちなみに、日本の男性の二〇〇八年の平均寿命は七十六歳で、世界第四位です。

また、世界で一番平均寿命が短い国は、アフガニスタンとジンバブエで、男女平均四十二歳となっています。ジンバブエは、最悪の独裁体制が続ぎ、隣国コンゴへの派兵などで経済や医療、教育などが悪化。一方、アフガニスタンは内戦とテロが繰り返される国。いずれもそうした

国の悲劇を現わしているのでしょう。日本でも、終戦の年、昭和二十年の平均寿命は男性二十三・九歳でした。長寿社会は、平和社会の象徴でもあるのですね。

ところで、明治二十四年～三十一年（一八九一年～一八九八年）の日本人の平均寿命は男性四十二・八歳、女性四十四・三歳で、今のアフガニスタンのレベルでした。ある調査によれば、これでも過大評価で、明治十九年の平均寿命は男性で三十二・八歳、女性三十三・二歳だったという説もあるそうです。といっても、それは戦争のためではありません。その年、コレラが全国的に発生、十五万五千九百二十三人が感染し、十万八千四百五人が死亡したのです。いずれにしても、当時は、コレラだけでなく、天然痘、赤痢、腸チフス、結核、梅毒など様々な伝染病が蔓延する、そんな時代でした。著名な明治人をみても、石川

啄木は二十七歳、樋口一葉は二十四歳で結核で死亡、そして、NHKの歴史ドラマ「坂の上の雲」で涙を誘った正岡子規は三十五歳で、結核性の脊椎カリエスで亡くなっています。人生四十年どころか、人生三十年という時代でした。

それに引き換え今日は、人生八十年、いや人生九十年も夢ではない時代となりました。今日の我が国は世界一の長寿国、大変喜ばしいことです。が、ご承知のように、一方で悩ましい問題も伴っています。寝たきりや認知症などの要介護高齢者の増加です。二〇一〇年時点で、要介護高齢者の数は約三百九十九万人ですが、二〇二五年には七百万人を超えるものと推計されています。そのような時代に備えて、自民党が政権にあった時代に「後期高齢者医療制度」が作られました。民主党政権になって、これを廃止してもっと優れた新しい高

ふじい もとゆき  
藤井 基之

- 生年月日 昭和22年3月16日
- 選挙区 参议院比例区
- 当選回数 2回
- 出生地 岡山県岡山市
- 趣味 音楽・読書
- 個人ホームページ  
<http://www.mfujii.gr.jp/>
- その他 薬学博士・薬剤師
- 私の政治信条  
私の政策の柱はA(エイジフリー)B(バリアフリー)D(ドラッグフリー:薬物乱用のない社会)社会創りです。  
高齢者も、障害を持つ方も、国民誰もが安心して暮らし、元気で生活を送ることのできる長寿社会を創るために何が必要か、を政治活動の根底においています。  
好きな言葉「昨日の夢は、今日の希望、そして明日の現実」
- 活動報告  
参院議員厚生労働委員会理事として、食品安全確保のための食品衛生法改正、健康増進法改正、薬事法改正、薬剤師法改正、クリーニング業法改正、国民年金法改正等に関与。
- 経歴  
昭和37年 岡山大学教育学部附属中学校卒業  
昭和40年 岡山県立岡山操山高等学校卒業  
昭和44年 東京大学薬学部薬学科卒業  
昭和44年 厚生省入省  
平成9年 厚生省退官  
平成9年 財団法人ヒューマンサイエンス振興財団 専務理事  
平成12年 日本薬剤師連盟 副会長  
社団法人日本薬剤師会 常務理事  
平成13年 参议院議員(1期目)  
平成16年 厚生労働大臣政務官  
(平成16年9月~平成17年11月)  
平成19年 日本薬剤師連盟 顧問  
平成22年 参议院議員(2期目)
- その他  
慶應義塾大学薬学部 客員教授  
昭和大学薬学部 客員教授  
東邦大学薬学部 客員教授  
新潟薬科大学 客員教授  
京都薬科大学 客員教授  
近畿大学薬学部 客員教授  
千葉大学薬学部 非常勤講師

高齢者医療制度を作ると言っていました。厚労省が案を出したとたんに、どこが現行制度より優れているんだと、地方自治体や産業界などから反対の声が上がりました。それどころか民主党内部からも、ハントイ、ハントイの大合唱、迷走を続けています。党綱領すら持たない政権与党の、政策のなさ、ビジョンのなさがここでも露呈しています。

それはさておき、要介護者の増加など深刻な問題もありますが、実は、日本は平均寿命世界一であると同時に、健康寿命(寝たきりや認知症にならず、自立した生活ができる期間)も七十三歳で世界一です。今、

日本では、東京マラソンに三万人もの市民ランナーが押し寄せる健康志向の時代。健康で心豊かな長寿ライフを楽しみたい、それは国民みんなの思いです。

では、高齢になっても元気に過ごす秘訣はなにか。かの孔子は、六十三、四歳のころ、自分自身の人柄について、弟子にこう言ったそうです。「憤りを発して食を忘れ、楽しみて以て憂いを忘れ、老いのまさに至らんとするを知らず」。

つまり、「時勢に対する怒りや学問的な興奮で夢中になり、食事をとることも忘れて熱中する、また楽しいことに没頭して心配事も忘れてしまう、自分が年若い

できていることも忘れてしまう。自分はそのような者だ」というのです。高齢になっても、何事にも情熱をもって立ち向かう。老いてなお情熱を持つ、人は生涯そうあるべきだと、孔子はそう言いたかったのだそうです。

もう一つ、「老驥伏櫪、志、千里にあり」という言葉が、三国志の英雄、曹操の詩にあるそうです。「年老いた名馬は、思うように働けなくなつて厩につながられてもなお、思いは千里の彼方を駆け巡っている」という意味だそうです。老いてなお、夢を忘れず、志を高くもつ。そんな長寿人生を楽しみたいものです。